



たまやまと

第65号

令和2年4月1日発行

発行：社会福祉法人
多摩大和園

編集：広報委員会

印刷：(株)共同印刷所

〒207-0003 東京都東大和市狭山2-1264-5

TEL042-563-8181 FAX042-565-5170

<http://www.tamayamatoen.net>

狭山公園の春

「後期高齢者を目前にして」

新しい年度に入り、進学、就職、そして年度末に退職した人など新生活のスタートを切った方々にとりましては、長い人生のなかでの一つの節目を経験していることでしょう。

一九四五年生まれの私は、今年の誕生日には後期高齢者の仲間入りをします。職場の先輩方が会場の場で笑みを浮かべ「俺も後期高齢者になったよ」と半分うれしそうに言われたのを思い出します。七十五歳も小さな節目だったのかもしれませんが。

今年から戦後生まれが、そして、二年経てば「団塊の世代」が仲間入りを始めます。同時に団塊の世代時代には約二七〇万人だった年間出生数が想定を上回る早さで減少が進み、昨年は八十六万人に激減しました。

このような少子高齢化社会にあつては、社会保障給付費の急増と現役世代の負担増をもたらすことになります。

この状況を年金の減額、医療費・介護サービスの利用料など個人負担の増、それに、高齢者の就業機会を七十歳まで伸ばす「七十歳現役社会」の実現などで乗り切ろうとする動きがあります。

欧米では老齢期をゴールデンヤーズといい、より豊かな生活が可能な年代としているようですが、そこまではいかずとも、これからの「人生一〇〇年時代」に向かって、できるだけ長く元気でいたいものです。

多摩大和園 理事長 川崎裕康



【忘年クリスマス会&餅つき大会
／十二月二十二日】

特養・ショートステイ



【初参り／一月初旬】

八坂神社、園庭の観音様を参拝しました。



【新年祝賀式／元旦】
令和初の新年を祝しました。



【マグロ尽くしの晩餐／二月二十五日】



【祝百二歳☆宮川かね様】



【節分会／二月三日】

令和2年4月1日

やまと苑



【忘年会／十二月二十六日・二十七日】
豪華洋食ランチと手作りマフィン、職員の寸劇『水戸黄門』、『あみだくじ大会』など、盛沢山！笑顔いっぱいの日になりました。

サービスセンター

【初参り／一月初旬】



【初参り／一月初旬】
園庭の観音様に初参りしました。



【新年祝賀会／一月四日】

- 【やまと苑 今後の予定】
- 施設全体
 - 四月 やまと苑開苑記念日
法人創立記念日
地域懇談会『ACPについて』
 - 五月 地域懇談会『からだのしくみ①』
近隣自治会合同防災訓練
 - 六月 地域懇談会『口腔ケア』
 - 特別養護老人ホーム
 - 四月 開苑記念式典・花祭り・お花見会
観音様の日・パウラコンサート
 - 五月 端午の節句・菖蒲湯・母の日
観音様の日・パウラコンサート
 - 六月 父の日・家族懇談会・訪問販売
観音様の日・パウラコンサート
 - サービスセンター
 - 四月 開苑記念式典
 - 五月 端午の節句・菖蒲湯
 - 六月 おやつの日・家族懇談会



【節分会／二月三日】

特養・ショートステイ

【新年祝賀式】

元日に新年をお祝いし、ダルマに目を入れて、お屠蘇とおせちをいただきました。



【初詣】

空気がひんやりしている中、新たな歳を迎えるご挨拶をして来ました。



【料理サークル】

寒い季節には体が温まるほうとうを作って頂きました。心もポカポカです。



【節分会】

その年の年男、年女の方に袴を着ていただき、無病息災を祈念し鬼退治を行いました。



【ほのぼのサークル】

その方にあった楽しみを提供するほのぼのサークル。今回は好きなこと発表会です。



【節句会】

甘酒をつくり、雛飾りの前で、ひなあられを食べました。顔がほころびます。



令和2年4月1日

さくら苑

サービスセンター

【節分会】

年男・年女の方に袴を着ていただき、皆さんで鬼退治をしました。



【世代間交流】

近隣の保育園児が定期的に訪問してくれます。子供はみなさんを笑顔にしてくれます。



【寄せ鍋】

まだまだ寒い日が続きますので、皆さんであったか鍋をいただきました。



【ふれあいデイサービス】

その方にあった個別のサービスを提供できるのもふれあいデイサービスの魅力です。



【さくら苑 今後の予定】

特 養

通 所

四月

- ・ 開苑記念式
- ・ お楽しみ会

五月

- ・ 日帰り旅行

六月

- ・ 日帰り旅行

- ・ お花見会
- ・ 開苑記念式
- ・ 食イベント

- ・ 食イベント
- ・ しょうぶ湯

- ・ 食イベント

きよはら

令和2年4月1日

在宅サービスセンターきよはら

【忘年会 十二月】

お楽しみ抽選会や、お鍋を囲みながらのアトラクションを楽しみました。午後は餅つき大会を行い、つきたてのお餅を食べて一年を締めくくりました。



【新年会 一月】

新年明けまして四日より営業を開始いたしました。年初めのご利用ということで、お屠蘇で乾杯後、今年一年の抱負を語りました。



【節分会 二月】

冬が去り春を迎えようとする立春の前に、年男・年女のご利用者に福豆を播いてもらい、今年一年の無病息災を祈念しました。



【きよはら 今後の予定】

■サービスセンター

- 四月 誕生会・利用者懇談会・世代間交流会
- 五月 おやつ作りの日・利用者家族懇談会・誕生会・世代間交流会
- 六月 日本舞踊鑑賞会・誕生会・利用者懇談会・世代間交流会

在宅事業

◇新たな事業◇

◇「死にたい」という相談◇

長年相談員をしていると、時々「死にたい」という相談を受けることがあります。

心に病がある方から「死にたい」という相談を受ける機会も多いですが、地域包括支援センターでは、「長く生きていても仕方が無い」という意味で「死にたい」と話すことが散見されます。

支援者から、どのように対応したらよいかと相談を受けることがあります。相談員の仲間たちにとのようり返答しているかと聞いてみると「そんな悲しいことを言わないでください」と言っている人が多いようです。

実際に心当たりがある方も多いと思います。

◇絶望感◇

人は様々な過程を経て心を育んでいきます。老年期は、その集大成であり、「次の世代に自分の経験を引き継ぎ、安心して余生を迎える」のか、もしくは、「引き継ぐ相手もなく、自分の人生は何だったのかと考え、絶望する」のか、両極端の感情が生まれます。

多くの人は、心のバランスを取りながら余生を迎えますが、一部の人は、この「絶望感」に苛まれ、「死にたい」と話されるように感じられます。

◇寄り添う力◇

「死にたい」という相談に対し、「そんな悲しいことを言わないでください」と返答すると、相手は「そういった発言はしてはいけない」「悲しんではいけない」というプレッシャーを感じ、さらなる意欲低下を招く原因になりかねません。

相手の気持ちに「寄り添い」、その人の今までの生き様に共感し、「死にたいと思うほど辛いんですね」と返答することが望ましいです。もちろん、誰もが同じ人生を送っているわけではありませんが、同じ伝え方はできません。一律の返答が望ましくないことが、支援を難しくさせます。

相手の生き様を思い、適切に返答すること、加えて一度「死にたい」とまで思ったご利用者に、生きる意欲を育むことができるよう支援することは、かなりの専門性を要します。「寄り添う力」が必要になるのです。

◇新たな事業と専門性◇

昨年末、厚生労働省から「新たな事業」について意見が出されました。政府が提言している「地域共生社会に向けた包括的支援」に当たる事業で、いわゆる8050問題や多問題世帯の支援がこれに当たります。

今まで、制度の狭間に埋もれていたご利用者の相談窓口となり、充実させなくてはならない事業です。

一方、対応する相談員は、かなりの専門性が求められます。制度の狭間にあるということとで、様々な制度や社会資源の知識が必要なのはもちろん、何より、ご利用者に「寄り添う力」が必要です。

多くのご利用者は相談に至るまでの過程が複雑であり、そこには「絶望感」があると思われるかもしれません。ただ寄り添うのではなく、「専門性を持った寄り添う力」が必要になるのです。

◇専門性の本質◇

制度や社会資源の知識は、勉強し、経験することで得ることができます。

しかし、「寄り添う力」は知識や経験だけで育むことができません。この専門性は、相談員の「人柄」や「人生観」が大きく影響されるのです。

厚生労働省の見解が出された後、多くの事業所は、専門職の確保を課題に挙げていますが、そのあたりが理由です。

「新たな事業」は、市町村の希望によって開始するため、東大和市においては、すぐに始動するわけではありません。

いずれ始まる事業として、それまでにそれぞれの自治体で『良い相談員の育成』が期待されます。



【新型コロナウイルスへの対策】

十二月の下旬から、中国の武漢を発端とする『新型コロナウイルス』の発症がにわかに騒がれ始め、あつという間に世界規模の感染症として、全世界に拡大しています。

この間、感染拡大の状況は、日々、悪化の一途を辿り、ニュース等を通じ、日本国内は基より、各国の現状が報じられています。

いずれにせよ、不安と脅威を生み、冷静さを欠くような状況が常態化しています。

日本国内においては、早々からマスクと消毒薬が不足し、一時的とはいえトイレットペーパーなどの紙類が店頭から消滅するという、不測の事態が発生しました。

当法人・施設においても、マスクや消毒薬の他、感染対策に必要な感染グッズの在庫を確認し、早期に業者へ納品を依頼するなど対応しましたが、不足感は否めません。

あらためて、感染症に関する資料を配布し、職員研修の一環として感染症対応について復習し、感染症対策において重要となる『標準予防策（スタンダードプリコーション）』を徹底しています。

併せて、職員の出勤前検温や体調管理の徹底、ご家族による面会の中止、ボランティア活動等の中止、業者等の出入時の管理等、

シビアに対応せざるを得ない状況であり、ご家族の皆様には、大変心苦しく思っているところでございます。

そのような状況の中、面会できないご家族からのご要望により、建物の外と中で、窓越しやベランダ越しに、お顔を会わせていただけるようお手伝いしています。ご家族とご利用者の双方から手を振り合うそのご様子は、まるで□ミオとジュリエットさながらです！

『令和』として、初めて迎えた新年。

日本を象徴する季節行事と言っても過言ではないお花見は、自粛を要請されました。

オリンピックイヤーである二〇二〇年。

五十六年ぶりとなる東京開催は、『新型コロナウイルス』という未曾有の感染症により、開催自体が危ぶまれています。

とはいえ、私たちの生活は、本来、何ら変わらず、日々続いていきます。

テレビやラジオ、新聞、携帯、パソコン等の情報媒体からあふれる膨大な情報に振り回されることなく、淡々粛々となすべきことを実践するしかありません。

このような時だからこそ、一日一日を大切にしつつ、ご利用者と職員の安全・安心を担保し、ご利用者の笑顔を失わないよう取り組んで参りたいと思います。

『こんな時だからこそ、住環境を調える』

新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、不安な日々を過ごされていると思います。

一日も早く終息することを切に願います。

このように、自分の力では、どうにもならない外側の環境に、右往左往、一喜一憂し、不安や恐怖から買いだめに走るなど、残念な行動をしないよう、こんな時こそ、今できることを冷静にやってみませんか？

ご自身の住む家の中の環境は、整っていますか？住環境は、自分で変えることが可能です。綺麗でスッキリした家に帰宅した時の気分は、どうでしょう。モノがたくさんあつて、ごちゃごちゃして片づいていない、落ち着かない家に帰宅したら、疲れが取れるでしょうか？意識していませんが、その環境に、気分を左右させられています。それに気づいていない人がどれだけ多いことか！とてももったいないことです。

数多くのご自宅訪問サポートをさせていただきますが、まるで、家の中で遭難するような場合もあります。不要なモノに囲まれ、主役である人がせまな状況の中、残念な生活をしています。まるで自分をいじめているかのような空間を自分に提供しているのです。断捨離を正しく学び、楽しく自宅を癒し空間にしませんか？やましたひでこ公認断捨離®トレーナーが、その極意を丁寧に伝えます。お気軽にご参加ください！

また、介護しやすい環境を作りたい方も、ご自宅を訪問し、具体的にどうしたらよいかが提案するなど、サポートいたします。

【レッスン日程】4/16、5/13、6/12

【参加費】千円

※前日までに要連絡

【時間／会場】午後6～7時／やまと苑喫茶室

【お問合せ・お申込】090（7839）3219

やましたひでこ公認断捨離®トレーナー

かまたきみこ